

神葉

さかきば

第12号

常陸國總社宮社報
令和4年元旦発行

ごあいさつ

常陸國總社宮

宮司 石崎 雅比古

令和四年（皇紀二六八二年）の新しい年を迎え、氏子崇敬者の皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。常日頃より当宮護持、諸行事に格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が更に拡大し、多くの人命が奪われ、感染者数も国内百七十万人を超え、社会生活にも支障を来たし、人々の苦しみと不安が募る状況が続いております。ワクチン接種が進み感染拡大は少しずつ治まりつつあるものの未だ収束の兆しも見えず一日も早く平穏な日々に戻れることを唯々願うばかりであります。全国の神社の祭りも中止、延期を余儀なくされ、当宮最大の行事であります例大祭（石岡のおまつり）も感染防止に鑑み、前年同様例祭祭典のみを斎行し神賑行事を更に一年延期をすることいたしました。

このような状況下ではありましたが、昨年十月二十日、当宮例大祭が「常陸國總社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事」として念願の石岡市無形民俗文化財の指定を受けました。コロナ禍で心も沈みがちな中、一筋の光が差した気がいたします。お力添えを賜りました皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

神賑行事が更に一年延期になりました本年九月の例大祭は引き続き中町の皆様方が年番をお務めくださいます。三年の永きに亘り年番の重責を担って戴いたご労苦に報いるべく盛大な祭典が斎行出来ますことをお祈り申し上げます。

本年のご皇室の弥栄、国家の安泰、皆様お一人お一人のご多幸をお祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。

總社宮ニュース

總社園遊会が盛大に開催



昨年11月1日から14日にかけて新しい菊祭り「總社園遊会」が今年も開催されました。縮小を余儀なくされた一昨年に比べ、感染症対策を徹底しつつ様々なプログラムを実施。多くの皆様にお楽しみいただくことが出来ました。

今回は八木地区より多くの受賞歴をもつ養菊家の海東稔氏が約30鉢ほど菊花を奉納。例年御奉納頂いている潮来市

菊花協会会長の羽生章氏の作品や石塚権補宜が一年かけて育てた約20鉢のダルマ菊も境内を華やかに彩りました。

また、リニユーアルオープンした「いばらきフラワーパーク」と初めてのコラボレーションを実現することができました。七五三で賑わう11月6日に参集殿大広間で「華江(Edo)〜ボタニカルポストカードづくりワークショップ」を開催していただき、当宮の巫女も特別に参加させていただきました。

11月7日は氏子青年ひたち会による「〜札(Cata)〜子供向け百人一首大会」を開催。金子美樹先生の御指導のもと20名の子供たちが競いました。優勝は11才の吉田花音さん。上の句を聞いただけで

札を取る腕前に大人たちも驚きの声を上げていました。

11月12日は欄宜による「〜聴Sumase〜神社でミュージックバー」。神社の穏やかな空間で、心静かに音楽を楽しむ夕べでした。

11月13日は「〜巫Kannagi〜巫女舞体験ワークショップ」に女子たちが参加。巫女の指導を受けて、神楽殿で「豊栄の舞」を奉納しました。

最終日は裏千家の海老澤宗香先生による「〜茶 maccha



〜神社でお抹茶体験」。20名の皆さんが茶筌で抹茶を点て、それぞれに味わう体験を楽しみました。



例大祭ニュース



令和3年の例大祭も神賑行事を行うことが出来ず、9月15日に例祭の祭典のみを斎行しました。

しかし、なんとか通常通りの祭礼を行うべく毎月1回「例大祭関係者会議」を行い、コロナ禍における祭礼の実施方法を協議して参りました。

医療アドバイザーとして岡崎内科医院の岡崎明信先生を迎えし、具体的な対策について石岡のおまつり振興協議会、石岡獅子舞連合会、石岡囃子連合保存会、石岡青年会、石岡市観光協会ほか関係者の皆さまと意見を出し合いました。

例大祭の原型となった合祀八坂神社祇園祭では昨年よりも一歩進んだ形での実施を目指し、神輿の渡御を境内でのみ行いました。總社明神會と協議を行って担ぎ棒を伸ばし、年番中町・ひたみち会から集った担ぎ手全員がマスクを着

用。健康管理を徹底しての渡御でした。

9月段階でのワクチン接種率が伸び悩み、関係者は断腸の思いで2年連続で神賑行事の延期を決定しました。協議した内容を無駄にせず、令和4年は必ず盛大に斎行できるように団結していきます。

10月以降、関係者会議は常陸國總社宮例大祭文化財指定検討協議会と合同会議とし、例大祭の文化財指定について併せて協議しています。10月20日には大変嬉しいニュースとして、石岡市の無形民俗文化財に指定されました。11月23日には氏子会主催・オンラインお囃子ライブを開催しました。2回目となった今回は、國分囃子連、守横囃子連、い組囃子連、若松囃子連、中町囃子連の5団体が出演し、拝殿でお囃子を奉納しました。

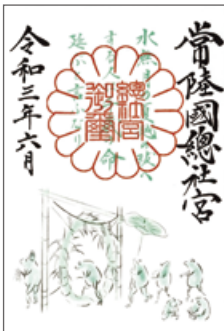


御朱印あれこれ

全国的なブームもあり多くの参拝者が御朱印をお求めになります。当宮では恒例祭典などに限定の御朱印を頒布しております。また、昨年9月からジャングル大帝御朱印帳を一回り大きくリニューアル。これまでの青色「あおい」に、ピンク色「うばら」が新しく加わりました。



令和3年例大祭特別御朱印



令和3年夏越大祓特別御朱印



ジャングル大帝御朱印帳 (うばら)



令和4年新年特別御朱印

神職日記

谷向八幡神社

總社宮の避難場所

今日は谷向八幡神社を紹介します。例祭はかつては旧暦9月15日に行われていましたが、現在は10月10日。創建年代は不明ですが、江戸時代とされています。「奉 再建八幡宮」と記された棟札に寛政3(1791)年4月とあり、宝永6(1799)年の谷向水帳にも記載があるそうなので、それ以前の鎮座と思われます。

「谷向」という地名の由来は諸説ありますが、国府跡に府中城を建てた大掾詮国が、城の安全と一族繁栄を願って城の最上階から、乾(北西)の方角を狙い放った矢の向かった先がこのあたりだったため「やむかい」と名付けられたという説や、大きな城下町では上棟の際、儀式で使用する矢の切っ先が向く方角であ

る乾を守る風習があり、府中城の乾を守るための地域を「やむかい」と呼んだとする説も。また、境内の東側一帯は、佐竹氏の府中侵略から逃れて一時移転した總社宮の跡地と考えられています。

権欄宣 橋本 紗也佳



●当宮のウェブサイトでは4名の神職が持ち回りで日々のつれづれを記す「神職日記」を毎週更新しています。

神職日記URL

www.sosyagu.jp/blog



4月29日 昭和祭 交通安全特別祈願



12月6日 新嘗祭

本日のお供え物

当宮では毎日の「日供祭」、毎月1日の「月次祭」で米、酒、塩、水などの日常的な神饌をお供えする他、恒例祭典では特別な品を調製することもあります。例えば根小屋の献穀

田で5月初めに行われる御田
植祭の朝には、早苗を神前に
お供えします。昨年4月29日
に行われた、昭和祭・交通安
全特別祈願では昭和天皇ゆか
りの食べ物橋本権禰宜が調

査。いちごジャムのサンドイッチ、ふかし芋、そして昭和ゆかりの品として「サクマドロップス」をお供えし、参列者にもドロップスを供物として授与しました。

また、今上陛下の大嘗祭の当日祭でお供えして以来、当宮の新嘗祭では庭積机代物として常陸国・茨城県から献上された特産物と同じものをお供えしております。



天竹神社

襴宜の石崎貴比古は東京外国語大学特別研究員として、日本人の異国認識を研究しています。昨年、日本学術振興会の科学研究費を取得。博士論文を書籍化した『日本における天竺認識の歴史的考察』を三元社から上梓しました。

天竺とは、インドを意味する古い名称と説明される

言葉ですが、これに關して興味深い神社が愛知県西尾市天竹町に鎮座しています。その名も「天竹神社」。竹と笠は同義です。御祭神はめんそ綿棉神と呼ばれ、日本に綿花の種をもたらした「崑崙人」とも呼ばれています。

天竹神社は日本における綿の発祥の地とされ、全国の綿業関係者や布団屋さんから崇敬を集めています。毎年10月第4週に行われる例祭「棉祖祭」では古式の綿打ち行事が披露されます。襦袢が参拝時には総代の戸田義夫氏に大変お世話になりました。誠にありがとうございました。



つねづねおちこち神社めぐり

ひたみち会の活動

細谷会長が県氏青連の会長に就任

茨城県では神社庁に登録する氏子青年会（氏青）が3つあります。創立順に筑波山神社氏子青年会、鹿島神宮氏子青年かなめ会、そして常陸國總社宮氏子青年ひたみち会です。このたび、細谷拓朗会長が3つの氏青をまとめる茨城県氏子青年協議会（県氏青協）の会長に就任しました。

県氏青協では今期、「氏子青年会をつくろう！」と題した啓発チラシを作成。茨城県神社庁発行の機関紙「国見」に織り込まれ、県内約530名の神職たちに氏青の設立を呼びかけました。

全国的な少子高齢化が進む中、氏青の存在は神社を

支える若い氏子の団体として日増しに存在感を増しています。

県氏青協は全国氏子青年協議会の一員として、伊勢神宮や靖国神社で行われる奉納子供相撲や、神宮への献穀行事など全国規模の活動の一翼を担っています。



デザインは当宮巫女の羽成結衣が担当

いつものまつりと「芸術工（わざだくみ）」

当宮では不定期で境内や社殿を舞台にした展覧会「のまつり」を開催してきました。コロナ禍では展覧会が急遽中止を余儀なくされたり、集客を躊躇したりと、アーティストたちは作品発表の機会を失っていました。

そこで当宮では短い期間の集客ではなく、長い時間をかけて作品の制作過程をご覧いただける取り組みを「いつも

のまつり」と題して行います。期間中は特定の芸術家を「芸術工（わざだくみ）」として選任し、作品を制作していただきます。

初代の芸術工はこれまでの「のまつり」の企画全ての総プロデューサーでもあった浅野暢晴氏（のほろ）氏にお願いすることになりました。

製作は節分後の2月4日以降に開始される予定です。



御奉納・御奉仕

(令和3年1月1日～11月)

一般奉納

随神門用提灯

酒と肴のたか木／随神講

令和坂アジサイ約70株

竹原神社氏子一同

石油ストーブ3基

茨石商事(株)

代表取締役 鈴木正人

国産麻2束

鈴木章浩

奉仕

清掃奉仕

石岡ライオンズクラブ

石岡青年会

禊場清掃

氏子青年ひたみち会



9月27日 竹原神社氏子一同



9月5日 氏子青年ひたみち会



11月6日 石岡ライオンズクラブ



6月27日 石岡青年会

ねぎ
ぼんず
始まります！

欄宜がお坊さんとお話する新しい番組「ねぎぼんず」が当宮公式YouTubeチャンネルで始まります。第一回は浄土真宗本願寺派真栄寺の増田将之さんをお招きしました。右記QRコードからご覧いただけます。



「ひたみちのくにつもの」 の誕生をお知らせします



①紙垂型由緒書 ②直道札 ③御塩 ④腰かけ小石 ⑤ひとみず守 ⑥やわら木 ⑦双峰ノーラ×2

全く新しい祈禱授与品「ひたみちのくにつもの」の頒布が始まりました。

当宮では毎朝の日供祭で『常陸国風土記』の序文を神前で詠みあげています。その中に常陸国が「くに・つもの豊かなる処なり」と記した箇所があります。「くに・つもの」つまりその国の自然が生む産物のことです。「ひたみちのくにつもの」はこの記述にあやかって名づけました。

住宅事情や生活環境の変化に伴い、大きな神棚を設けるご家庭が少なくなりました。また、神社や神道には興味が

あるけれど、お札を置く場所がない、といった声が全国的に聞かれます。「ひたみちのくにつもの」はそうした声にお応えし、より多くの皆様に関心を持っていただくために常陸國總社宮の神職が考案しました。

インテリアにもなじむ、優しいデザインの「直道札」、オブジェやパーパーウエイトとしても使える「腰掛小石」、リバーシブルで丸みを帯びた「ひとみず守」、毎日神前にお供えしている「御塩」、常陸国の山と海の恵みを味わえて筑波山のようなパッケージも楽しい「双峰ノーラ」といった品々を鎮守の森を思わせる香りの「やわら木」に包んでお届けします。

初穂料 一式 8,000円
(送料別途)
願意を一つお選び頂けます。